

論文審査の要旨

報告番号	総研第 693 号	学位申請者	川畑 孟子
審査委員	主査	西尾 善彦	学位
	副査	井戸 章雄	副査
	副査	曾我 欣治	副査
			武田 泰生

Insufficient blood pressure control is independently associated with increased arterial stiffness

(不十分な血圧コントロールは独立して動脈硬化度の進行と関連する)

血圧の治療目標値を達成することが、心血管イベントの発症の予防につながることを報告されており、不適切な降圧コントロールにより動脈硬化の進行と心血管疾患の発症につながる可能性がある。そこで学位申請者らは、降圧剤の有無による血圧コントロール状況と動脈の硬化度との関係を調査した。

2019年に垂水市で実施された地域コホート研究に参加した1,024人を対象とし、動脈の硬化度はCardio-Ankle Vascular Index (CAVI)を用いて評価した。血圧の上昇は収縮期血圧140 mmHg以上かつまたは拡張期血圧90 mmHg以上と定義した。参加者を降圧薬の内服がなく血圧の上昇がない正常群、降圧薬の内服がなく血圧の上昇している未治療群、降圧薬を内服し血圧の上昇がないコントロール良好群、降圧薬を内服し血圧の上昇しているコントロール不良群の4群に分け、正常群に対するそれぞれの群のオッズ比をロジスティックモデルで見積った。CAVI値は、これまでの報告を参考にし、境界値として8.0、異常値として9.0と2つのカットオフ値を設けた。

その結果、本研究で以下の知見が明らかにされた。

- 1) 血圧正常群421人(43%)、コントロール良好群209人(21%)、コントロール不良群176人(18%)、未治療群174人(18%)であり、正常群のCAVIの平均値は、他の3群に比べ有意に低かった。
- 2) CAVIの境界値である8.0をカットオフ値とした単変量解析において、未治療群、コントロール良好群、コントロール不良群いずれも高CAVIと有意に関連していた。多変量解析では、正常群を基準とした場合、他の3群いずれも高CAVIと独立して関連していた。
- 3) CAVI異常値である9.0をカットオフ値とした単変量解析において、未治療群、コントロール良好群、コントロール不良群いずれも高CAVIと有意に関連していた。多変量解析では、コントロール不良群と未治療群が高CAVIと独立して関連していたが、コントロール良好群は関連を認めなかった。

CAVI9.0をカットオフ値にした際は、血圧コントロール良好群と正常値群では有意差がなく、早期の動脈硬化で、ガイドラインに基づいた血圧管理を達成すれば、動脈硬化の進展を抑制できる可能性が示唆された。また、CAVIをサロゲートマーカーとすることで、血圧の適切なコントロールが動脈硬化進展の抑制につながるということが明らかとなった。

今回の研究は、日常の臨床場面で患者本人や医療従事者に対し、適切な降圧療法の重要性の認識が上がり、血圧コントロール率の上昇に貢献すると考えられる。

よって、本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。